

岐阜県教販通信

No.0028

GIKYOHAN TIMES

2023 年 6 月発行

図書館ブックフェア 2023

当社は岐阜県全小中高校に 100 年以上教科書を供給し続けてきて 2021 年度に、「スクーライブラリー」進呈させて頂きました。電子図書によって新しい読書の機会を与えることで深い学びにつながる一助となればと思います。本年度は県教委の後援の下 7 月 20 日～23 日まで児童図書展示会を当社で行います。2 万点にも及ぶ児童図書からの選書は圧巻です。学校図書館の充実に役立つものと考えておりますのでご参加のほう何卒宜しくお願い致します。又、第三回本の日読書感想文コンクールも今年も開催します。何卒宜しくお願い致します。

7 月 20 日木曜から 23 日日曜までの 4 日間にわたり、児童図書・優良図書の展示会である「図書館ブックフェア 2023」が、初めて岐阜市で開かれる。全国各地で毎年開催されているこの展示会が、初めて岐阜県の県庁所在地で行われることになったのだ。

文字通り、小中高校生のために有益と思える本の実物を展示し、実際に手に取ってページをめくり中身を読んでもらえる場となっている。しかも、会場に並ぶのは、新刊図書を中心に約 3500 点 11500 冊という豊富な量だ。どれも良質な内容の本である。学校図書館、公共図書館の関係者はもちろん、教員、保護者、一般の方々も無料で自由に入場することができるから、今の子どもたちのために作られた本の内容を確かめてほしい。また、小中高校生自身が、直接新刊本に接することのできる貴重な機会でもある。

AI だ、ICT だと言われる今日でも、読書による学びの価値は不変である。だから、文部科学省も、毎年行う全国学力・学習状況調査の中で、07 年度にこれを開始した当初は「学習状況」として読書に関する調査をしていなかったのに、途中から読書量についても調べるようになってきた。

今では、ICT 機器の使用状況と並んで、読書量だけでなく、学校図書館や公共図書館の活用状況、さらには家庭にある本の量、読書を好きかどうかの質問まで加えている。これは、読書の重要性を強く認識している表れだ。新しいツールである AI や ICT の学習における効用は当然としても、長い歴史を持つ読書の持つ＜学ぶ力＞は決して減びない。AI や ICT とは違う形で、人の思考や意識に大きな影響を与えるのだ。

以前にこの欄で、わたし自身の子ども時代の読書体験を披露した。あれに少し付け加えておこう。小学校 4 年の 3 学期途中まで過ごした福岡市の小学校は、その頃（1960 年代！）としては大規模な学校図書館を持っており、そこで借りる本を選ぶ楽しさは、土曜日放課後の何よりの楽しみだった。ところが、転校した鹿児島市の小学校には図書館がない。今と違って公共図書館も近くにはないし、当時は小学生が利用できなかった。

寂しい思いをしているある日、職員室前の廊下の片隅に一つだけ置いてある小学生向けの本が並んだ書棚を発見した。先生に聞いてみると、学校図書館はないけれど、この書棚にある本は貸し出しできるという。うれしかった。たいした冊数ではないものの、そこにある本をひとつひとつ手に取って（そう、だから今回のブックフェアの意義があるのだ。ネットで注文する本は、内容情報しか見られない）、興味ある順に借り出した。卒業するまでに、ほとんどの本を読むことができたと思う。

その中で、本の名前は忘れたのだが、世界の歴史を書いた数冊のシリーズが印象深い。わたしの歴史観は、その本によって形づくられたと言っても過言ではないのだ。まず、その本の半分を占めたのが中国の歴史だった。その後には読んだ西洋史が大半を占める歴史書と違い、中国史を中心に据えて世界を展望する内容なのである。

そして、中世以降の中国の王朝が、宋（漢民族）→元（モンゴル族）→明（漢民族）→清（女真族）→中華民国（漢民族）と交互になっていること、それは民族の力の興亡であることを強調していた。日本の場合は、少なくとも古代以来、異民族王朝は存在しない。なるほど、世界はそんなダイナミズムで動いているのか、日本史という小さな視野で物事を考えてはいけけないのだ、と子どもなりに感じたのである。

それが、50 年近く経った現在でもわたしの世界観になっているのだから、読書の力はまことに大きいではないか。

今回のブックフェアによって、会場で直接本を選ぶのも、フェアを通じて充実した学校図書館や公共図書館の蔵書を通してでも、子どもたちに大きな学びを獲得させてくれることに、とても期待している。それが、50 年近く経った現在でもわたしの世界観になっているのだから、読書の力はまことに大きいではないか。

今回のブックフェアによって、会場で直接本を選ぶのも、フェアを通じて充実した学校図書館や公共図書館の蔵書を通してでも、子どもたちに大きな学びを獲得させてくれることに、とても期待している。



寺脇 研 氏

寺脇研（てらわき けん、1952 年～）元文部官僚。星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省 NO.1 の論客でならし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身